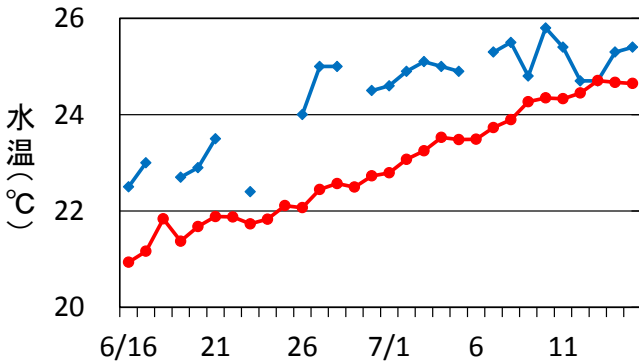




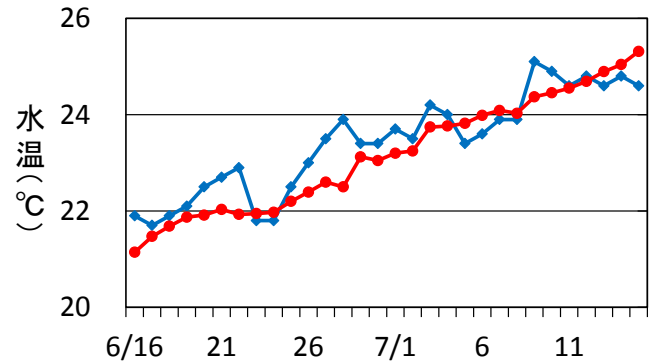
【海の状況 (6/16~7/15)】

神子表面水温・期間を通して概ねはなほだ高め（過去30年平均より1.5~2.0℃程度高め）で推移した（図1）。米ノ表面水温・期間を通して概ね平年並み（過去15年平均±0.5℃程度）からやや高め（過去15年平均より0.5~1.0℃程度高め）で推移した（図2）。



◆ 神子(本年) ● 神子平年(過去 30 年平均)

図 1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(本年) ● 米ノ平年(過去 15 年平均)

図 2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温・2014年7月上旬の若狭湾沿岸域は16℃台の水温分布で、昨年同時期と比べて概ね1℃程度高めの水温分布となっていた（図3、4）。

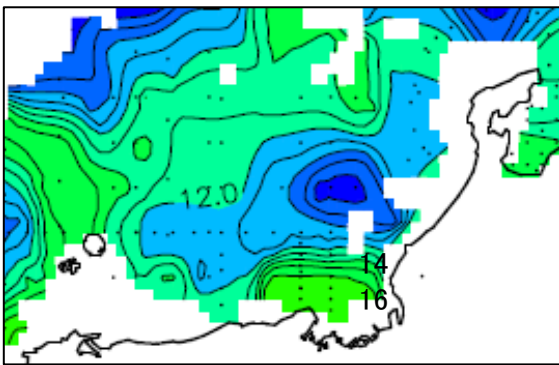


図 3. 2014 年 7 月上旬の 100m 深水温

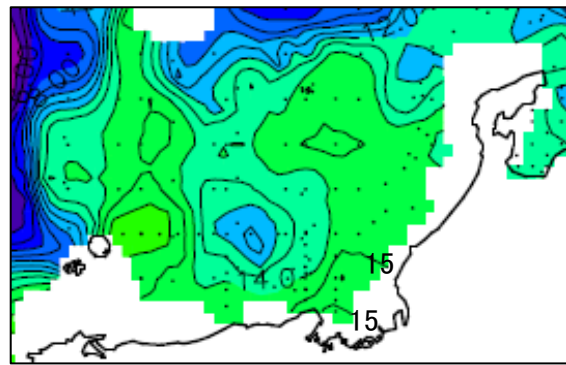
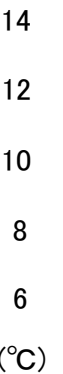


図 4. 2013 年 7 月上旬の 100m 深水温



資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

平成 26 年度 第 2 回 日本海海況予報

日本海区水産研究所からみだしの予報が発表されましたので、その概要をご紹介します。

- 予報対象期間：平成26年7~9月
- 対馬暖流域の表面水温はかなり高め（1.5℃程度高め）で経過する。
- 対馬暖流域の50m深水温は日本海西部および北部とも平年並み（±0.5℃程度）で経過する。
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは平年並みで経過する。

※詳しくは（独）水産総合研究センターのホームページ（<http://www.fra.affrc.go.jp/>）からも閲覧することができます。
（宮田克士）

〔県内の漁模様：6月〕

2014年6月の県内の総漁獲量は1,178tで、昨年同月を11t下回った。

定置網

漁獲量は949tで、マグロ類、カツオ類、ブリ（ワラサ・ハマチ・ツバス銘柄）等の魚種を中心に前年同月を144t上回った。一方、アジ類、サバ類、ブリ（ブリ銘柄）、サワラ、トビウオ等は前年同月を下回った。

底びき網

漁獲量は54tで、概ね前年同月並みの漁獲量であった。

釣り・その他

漁獲量は175tで、スルメイカ、タコ類等の魚種を中心に前年同月を158t下回った。一方、アナゴ等は前年同月を上回った。

(単位：kg)

定置網			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
カタクチイワシ	7,272	13,707	11,516
アジ類	47,415	189,237	411,249
サバ類	2,028	22,764	62,475
マグロ類	4,578	778	5,320
カツオ類	11,121	2,323	753
ブリ	696,002	287,832	251,627
（ブリ）	20,884	155,178	55,650
（ワラサ）	20,051	15,035	23,717
（ハマチ）	37,623	22,393	71,944
（ツバス）	617,418	95,183	100,179
（アオコ）	27	43	137
ヒラマサ	2,795	3,302	1,109
シイラ	1,987	3,907	1,299
サワラ	49,863	70,850	67,433
トビウオ	75,350	128,153	178,760
マダイ	8,042	5,309	12,113
クロダイ	1,502	2,147	1,159
スズキ	7,525	6,895	6,644
ヒラメ	1,447	1,057	1,482
カマス	5,383	5,698	6,951
フグ類	5,055	4,331	12,331
スルメイカ	1,002	18,331	12,982
ケンサキイカ	2,120	15,127	10,829
合計	949,386	805,212	1,086,556

底びき網のつづき			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
アカエビ	29,487	33,509	39,410
その他エビ	3,565	4,521	3,636
合計	54,078	51,513	54,071

釣り、延縄、さし網、その他の漁法			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
ブリ	1,518	3,382	3,248
（ブリ）	400	1,862	274
（ワラサ）	679	462	568
（ハマチ）	143	883	2,266
（ツバス）	296	175	139
トビウオ	1,528	262	578
マダイ	1,855	3,143	4,107
キダイ	7,723	8,110	5,610
アマダイ	3,156	3,670	5,629
スズキ	3,735	4,082	5,977
ヒラメ	1,863	1,292	3,296
その他カレイ	1,741	3,515	3,844
アナゴ	5,094	3,864	3,915
メバル類	4,238	6,208	5,100
キス類	1,071	82	409
スルメイカ	46,469	162,531	212,281
タコ類	31,029	43,926	38,038
合計	175,033	333,234	395,991

底びき網			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
キダイ	2,417	1,371	682
アカガレイ	10,084	4,571	2,471
その他カレイ	1,343	1,712	1,309

総計	2014年	2013年	04-13平均
	1,178,497	1,189,959	1,536,619

※（ ）は銘柄
 ※その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類
 ※その他エビはアカエビ以外のエビ類

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況……石川県；6月1～15日の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府；6月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県；6月中旬～7月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県；6月中旬～7月上旬の1統あたりの漁獲量。)

石川県……定置網……ブリ（フクラギ銘柄）8.6t、サワラ・サゴシ2.5t、トビウオ2.2t、マアジ2.0t、スルメイカ1.8t、サバ類1.6t。

京都府……定置網……ブリ（ハマチ・ツバス銘柄主体）8.3t、カタクチイワシ7.4t。

兵庫県……定置網……アジ256kg、トビウオ32kg、シロイカ25kg、ブリ（ツバス銘柄）18kg。

鳥取県……まき網……マアジ17.7t、ウルメイワシ1.4t、カタクチイワシ1.2t、ブリ類0.7t。

(宮田克士)

「越前うに」から教えられた宝物

【越前うにと種苗生産】「越前うに」は愛知県の「このわた」、長崎県の「からすみ」とならんで、江戸時代からおよそ400年にわたって日本の三大珍味のひとつとして親しまれてきました。この「越前うに」というのは商品名で、バフンウニの生殖巣の塩蔵品のことをいいます。しかし、困ったことに、近年のウニの漁獲量は減少したままで、10年前に比べて3分の1以下になっています。そこで、県ではウニの漁獲量を増やすための対策が行われています。まず、ウニの好漁場として、水深2～5mの水深帯で10cmから60cmの石が2段から3段、隙間なく広がっていることが条件となります。従来から、ウニ漁場に新たな石を入れるという漁場造成が行われてきていますが、さらに、積極的な増産対策として、人工的に生産した稚ウニを直接、漁場に放流するといった手法が導入されました。福井県水産試験場栽培漁業センターでは、10月の時点で直径2cmのウニ20万個体を生産しています。ウニの種苗生産を行うためには、親ウニの確保が重要で福井県産の天然の親ウニを春（特別採捕許可取得）に入手し、卵を採るまでの間は、親ウニには栄養価の高い生の海藻を給餌しています。

【ウニと海藻】水産試験場では、どのような海藻がウニの成長や成熟に良いか試験を行ってきました。その結果、ウニは多くの種類の海藻を摂餌していることがわかりました。このウニが食べられる海藻は私たちも食べられます。しかし、苦手な海藻として、シオグサやシオミドロなどが確認されました。そこで、本県で食用として利用されている海藻を調べてみますと表1のとおり、約17種類ありましたが、食用に利用可能な海藻は約29種類あることが分りました(表1)。なお、日本で最も多くの種類を利用している所は、石川県の能登地方で、約30種類でした。

表1 福井県沿岸の食べられる海藻

海藻区分	利用海藻種名	未利用海藻種名
緑藻類	アオノリ類・フサイワズタ(海ぶどう)	ミル
褐藻類	モズク・イシモズク・カヤモノリ・ハバノリ・ワカメ・クロメ・アカモク	クロモ・ホンダワラ・セイヨウハバノリ・フトモズク・ツルモ
紅藻類	アマノリ類(岩ノリ・海海苔)・ウミゾウメン・マクサ・オバクサ(天草)・アミクサ・エゴノリ・イバラノリ	マフノリ・フダクラ・ムカデノリ・キョウノヒモ・カタノリ・オゴノリ・シラモ・ツルシラモ・トサカマツ・トチャカ・マツノリ・コメノリ・ワツナギソウ・ハネソゾ・ミツデンゾ・クロソゾ・ユナ・ヒトツマツ・ユカリ・ホソユカリ・サクラノリ

【海藻の魅力】皆さん様も、ご承知のとおり海藻は健康食品であり、ビタミン、ミネラルの宝庫で、低カロリー食品として知られています。具体的には、①植物繊維（ナトリウムの排泄促進、大腸がんの予防）、②がんの予防（特に、モズク・ワカメが免疫力を向上）、③胃潰瘍の予防（アオノリ、海苔、コンブは傷ついた粘液膜を補修）、④高血圧を下げる、⑤コレステロールを下げる、⑥骨粗鬆症・貧血・甲状腺障害などを防ぐといわれています。

最後に、市販されている海藻サラダの一例を掲載しましたが、現在、県内産の海藻だけを使った「新たな海藻サラダ」も開発されています。皆さんも身近にある海藻を探索されてはどうでしょうか。
(日比野憲治)



平成26年度スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月上旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果

福井県沖合の4定点において、釣機6台を用いて毎晩8時間(20時～4時)の釣獲試験を行いました。

- 漁場水温…釣獲海域の表面水温は 23.1～24.7℃ (2013年; 22.8～24.2℃)、50m深水温は 12.6～17.0℃ (同; 12.2～20.1℃) でした。
- 釣獲結果…総釣獲尾数は、1,122尾 (2013年; 1,662尾)、CPUE(釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は 1.9～13.3尾、平均 5.8尾 でした。
- 体長組成…釣獲されたイカの胴長(外套背長)は、6月30日及び7月4日の操業においては 15～17cmの個体が主体で、7月1日及び2日の操業においては 19～21cmの個体が主体 でした。

月日	6月30日	7月1日	2日	3日
調査位置	N 36° 39' E134° 54'	N 37° 58' E135° 04'	N 37° 21' E135° 41'	N 36° 49' E135° 39'
釣獲尾数	640	241	89	152
CPUE	13.3	5.0	1.9	3.2
平均胴長 (cm)	16.3	20.2	20.0	16.6
表面水温 (°C)	24.7	24.1	23.1	23.2
50m深水温 (°C)	14.9	16.7	17.0	12.6
標識放流尾数 (尾)	50	—	—	4
標識番号 (黄色アンカー型タグ)	JPN A11		JPN A08	

(2) 日本海全体の状況

日本海区水産研究所の取りまとめによると、全調査定点におけるCPUEの平均は29.34尾で、1975年以降で最も高い数値となりました。特に道央～道北では、CPUEが100尾を上回る点もあり、分布密度が非常に高くなっていました。一方、山形県～鳥取県に至る沿岸域ではCPUEが20尾前後またはそれ以下と低く、また小型サイズのものが多く採集されました。沖合域では大和堆付近でCPUEが50尾以上の高い調査点が多くみられ、道央・道北、沿岸域よりも大型個体の比率が高くなっていました。

5月の西部日本海の漁獲量は前年並みで、6月は前年及び近年平均を下回りました。

今後の見通しとして、西部日本海では、来遊量は近年平均及び前年を上回るものの、近年は高水温の影響で好漁場が形成されにくい状態が続いており、今年も沿岸域に高水温域が広がっているため好漁場は形成されにくいと予想されています。沖合域においては、8月は大和堆付近に大型個体の漁場が形成される見込みで、9～10月は北海道周辺で小型個体の漁場が形成されると予想されています。

本調査では、各機関により標識放流が行われました。標識の付いたスルメイカが採捕されましたら、水産試験場までお手数ですがご連絡ください。

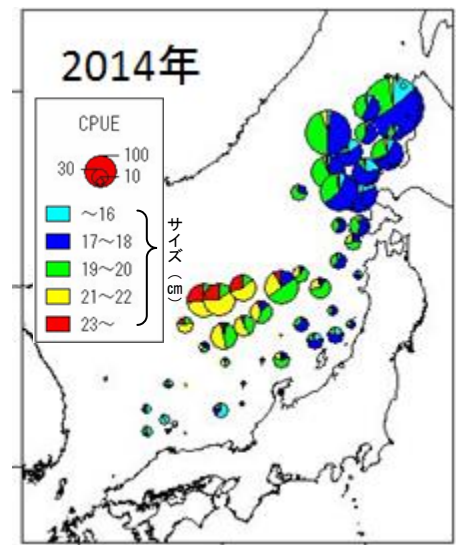


図. 日本海におけるスルメイカの分布状況

(北山和也、鮎川航太)